

## 部 会 報 告

第 13 回 ISO/TC 195 (建設用機械及び装置) 及び  
ISO/TC 195/WG 4 (コンクリート機械) ワルシャワ国際会議報告

## 標 準 部 会

## 1. はじめに

ISO/TC 195 は土工機械、クレーン及び昇降式作業台を除く全ての建設機械を所掌する専門委員会 (TC) であるが、その中で特に日本がコンピーナを務めるコンクリート機械の作業グループ (WG 4) の国際会議及び第 13 回 ISO/TC 195 国際会議とが平成 15 年 5 月 6 日～9 日、下記の日程でポーランドのワルシャワ郊外にある建築・鉱山機械化協会が開かれ、日本からは下名の代表が出席した。

## (a) 会議出席者

大村高慶：コンクリート機械関係国際規格共同開発調査委員会委員長 (ファーネスエンジニアリング) ISO/TC 195/WG 4 日本主席代表

田島 修：コンクリート機械関係国際規格共同開発調査委員会委員 (日工) ISO/TC 195/WG 4 日本代表

川合雄二：コンクリート機械関係国際規格共同開発調査委員会委員 (日本建設機械化協会) ISO/TC 195/WG 4 コンピーナ

小林幸代：日本規格協会コーディネータ

## (b) 会議日程

5 月 6 日 (火) ISO/TC 195/WG 4 会議 (1 日目)

5 月 7 日 (水) ISO/TC 195/WG 4 会議 (2 日目)

5 月 8 日 (木) ISO/TC 195 会議 (1 日目)

5 月 9 日 (金) ISO/TC 195/WG 4, WG 5 (特設グループ) 及び ISO/TC 195 会議 (2 日目)

## 2. 会議概要

ISO/TC 195 の活動は、日本がコンピーナとなり自作自演で規格化を進めている 7 件の WG 4 (コンクリート機械) 関係の国際規格案以外では、新たに WG 5 (道路機械) の業務項目として承認された米国提案の「アスファルトフィニッシャの用語と仕様項目」1 件だけで、前 2 日間で WG 4 会議、後 2 日間で本会議であったが本会議での審議も専ら WG 4 の案件の検討に集中した。

WG 4 の案件のうち 6 件については、過去 3 年間で WD 1 件、CD 3 件及び DIS 2 件段階にまで仕上げられているが、今回の TC 195/WG 4 会議では、この時点でメンバの意見が提出されていた CD 18651 (内部振動機) 及び DIS 18652 (外部振動機) の 2 規格案について集中審議が行われ、意見調整が図られた。その他の規格案については現状に対するメンバー間の認識の一致、問題点への対応策等が討議され、次段階へのスケジュール及び各メンバーの役割が明らかになった。

TC 195 会議では、日本からは、先行して開催した TC 195/WG 4 会議の結果報告及び TC 127 の規格の TC 195 への適用を検討する TC 195-TC 127 JWG の事前検討結果の報告を行った。なお、TC 195 の会議がほぼ 1 日で終了したので 5 月 9 日は TC 195/WG 4 会議で討議できなかった「外部枠振動機」及び WG 5 の新業務項目「アスファルトフィニッシャ」について各特設グループを編成して 2 手に分かれて審議を終了させた。

今回は韓国、米国等アジア環太平洋国の参画及び先進技術を有するスウェーデンからの参加もあり活発に論議が展開された。

## (1) ISO/TC 195/WG 4 会議 (5 月 6 日～7 日, 9 日)

## (a) 会議出席者

ポーランド：K. Szymanski, A. Rozbiewski, M. Szarlik

米 国：F. W. Wenzel, D. J. Moss

ド イ ツ：P. J. Probst

韓 国：J. H. Lee, Y. S. Pi

日 本：大村、田島、小林、川合 (コンピーナ)

以上 12 名



写真-1 会議の開催されたワルシャワ建築・鉱山機械化協会

表-1 規格案と決議事項

規格案名称	決議事項
1) コンクリートミキサ 第1部 用語と仕様項目 (DIS 18650-1)	既に DIS が 5 月 26 日締切りで発行されているのでここでの審議は行わず、投票及びコメント提出を積極的に行うよう要請した。
2) コンクリートミキサ 第2部 性能試験方法 (WD 18650-2)	幹事国が作成した CD に関し、前回の状況からの変更箇所が不明確であること及び変更箇所が多くメンバでの検討も必要であるので WD 3 次案として幹事国で 5 月末までにメンバに回付する (メンバからの回答期限 9 月 30 日)。 なお、相異なる骨材の定義の規格への反映方法については、米国が 5 月 20 日までに関連規格を調査のうえ、纏める。
3) コンクリート棒形振動機 (CD 18651-4)	3 月 15 日締切りの CD 投票に寄せられたコメント (日本からは、38 件提出) の全てにつき審議して WG 4 としての意見調整が行われた。なお、事前検討、準備項目として、次の作業が必要となる。 ① 幹事は振動の人体への影響を規定している ISO 8041 及び ISO 5349 を検討して 7.4 項の「日常振動暴露試験」の中にどのように反映させるか案を作成し 6 月 15 日までにメンバに回付して意見を求める。 ② 日本は、偏心タイプ及び揺動 (遊星) タイプの画を 6 月 10 日までに提供する。 ③ 米国、ポーランドで一部の仕様に関する用語、定義、計算式について案を作成し 6 月 15 日までにメンバに回付して意見を求める。
4) コンクリート型枠振動機 (DIS 18652-2)	4 月 14 日締切りの DIS 投票の結果提出されたコメント及び日本からの追加コメントを全てにつき審議して WG 4 としての意見調整が行われた。この結果はこの後行われる、日本、ポーランド、米国による 6 項目の調査、検討を経て幹事によって 8 月 31 日までに改正案が作成され、日本による追加意見を確認のうえ、FDIS として纏められ中央事務局に 9 月 30 日までに送付される。
5) コンクリートポンプ 第1部 用語と仕様項目 (CD 21573)	今まで提出されたコメントを含めた DIS を幹事が 9 月 30 日までに作成し、中央事務局に送付する。
6) コンクリート吹付け機 (CD 21592-2)	今まで提出されたコメントを含めた DIS を幹事が 10 月 30 日までに作成し、中央事務局に送付する。
7) コンクリートポンプ 第2部 性能試験方法 (NWIP)	新業務項目の投票の結果、点数が規定の承認点に達せず、不承認となったが、日本より投票の主旨に対する誤解があったこと及び未投票が多かったことを指摘して、再度提出することに対する同意を得た。

## (b) 各規格案の審議、決議内容

検討された規格案と決議事項を表-1 にまとめて示す。

## (2) ISO/TC 195 会議 (5 月 8 日～9 日)

## (a) 会議出席者

ポーランド: K. Szymanski (議長), A. Rozbiewski (幹事),  
M. Szarlik, J. Bienka, R. Nadowski, A. Dudczak  
ほか 5 名

米 国: D. Emerson, F. W. Wenzel, D. J. Moss

ド イ ツ: G. Piller, P. J. Probst

韓 国: J. H. Lee, Y. S. Pi

スウェーデン: R. Thesslin

ルーマニア: A. Michalcea

日 本: 大村, 田島, 小林, 川合

以上 24 名

## (b) 審議内容

今回の TC 195 本会議では、WG 2 (用語と定義) で検討中の道路機械の用語と定義を ISO 11375 (TC 195 全体の用語と定義) に追加する DIS 規格案の概要紹介と「アスファルトフィニッシャ」ほか 3 件の新業務項目提案の投票結果又は紹介報告以外は、定型的報告だけで、ほとんどの時間を使って日本からの下記の報告を中心に審議が行われた。

## ① 5 月 6 日、5 月 7 日の ISO/TC 195/WG 4 会議での討議結果の報告

コンビーナである日本からの報告をベースに関係 7 規格案に関して今後の作業内容及びスケジュールの確認と調整が行われた。

## ② TC 127 の規格の TC 195 への適用を検討する TC 195-TC

## 127 JWG の事前検討結果の報告

コンビーナである日本から平成 14 年 10 月 23 日、24 日ミルウォーキで TC 195/WG 4, WG 5 の専門家及び TC 127 の代表が参集して行った予備会議及びその後の検討結果の、総括として次の提案を行った。

(i) TC 127 側からは、規格検索システムの確立、TC 127 側からの項目の推奨等多大な協力が得られた。

(ii) この後の作業は TC 195 の WG 4, WG 5 活動として行われるべきで新たに TC 195-TC 127 JWG を設ける必要はない。



写真-2 ISO/TC 195 会議風景

この内容については満場一致で承認されたが、この作業の必要性については、懐疑的意見が多く、Szymanski 議長から Technical Report にする提案も出された。

### 3. 所 感

今回の会議の最大の収穫は、韓国、スウェーデンからの参加で、今回は初参加であったが前向きに取組もうとする積極的姿勢が見られた。これを機会に両国とも、日本の強力なパートナーとなることが期待できる。

今回の会議で幹事国ポーランドに対して、

- ① 各国より提出された意見を取纏める時に自分の判断を入れ過ぎる。

② 何時の間にか規格案が幹事国の判断で直されている。

③ 発言が一方的で会話が成立しない。

等の不満がドイツほかより出された。

ポーランドの場合極端なので、当然至極な苦情であり、改善されるべき事項であるが、規格を効率的に纏めていく際に幹事国での裁量もある程度は許容されるべきで、より思慮深い適度な対応が要求される。

コンクリートの施工市場として最も期待している中国からの参画が新型肺炎 SARS の関係からか、実現しなかったことは前回、協力的発言があっただけに非常に残念である。一日も早く 100% 安全宣言ができる日が来ることを期待したい。

(文責：川合雄二)

## 発刊—建設機械技術者必携 建設機械施工ハンドブック (改訂版)

建設機械による土木施工現場における監理技術者、専任の主任技術者、オペレータ、世話役、監督等の現場技術者、建設機械メーカー、輸入商社、リース・レンタル業、サービス業などの建設機械の技術者や、大学、高等専門学校、工業高等学校において建設機械と建設施工を勉強する学生などを対象として本書は書かれています。

今回、最近の技術動向、排気ガス対策、安全衛生管理体制、建設副産物、適正な施工体制等について最新の技術と内容をより充実させ、機械化施工における環境の保全、効率的な工事の施工が図られることを念頭に改訂編纂し出版しました。

建設機械技術者にとって必携の書でありますのでご案内申し上げます。

#### ■掲載内容 (三分冊)

- ・基礎知識編 (土木工学一般、建設機械一般、安全対策・環境保全、関係法規)
- ・掘削・運搬・基礎工事機械編 (トラクタ系機械、ショベル系機械、運搬機械、基礎工事機械)
- ・整地・締固め・舗装機械編 (モータグレーダ、締固め機械、舗装機械)

■体 裁：A4判 全約 910 頁

■価 格：会 員 10,000 円 (消費税込) 送料 600 円

非会員 11,550 円 (消費税込) 送料 600 円

## 社団法人 日本建設機械化協会

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 (機械振興会館) Tel. 03(3433)1501, Fax. 03(3432)0289